



# 「高齢者の『暮らし支え合い』について」



全国老人クラブ連合会

平成23年（2011年）12月

## はじめに

高齢になると、暮らしの中で不自由に感じるが増えてきます。特に、ひとり暮らしや高齢者世帯では、ちょっとした困りごとが負担となり、自立した生活が困難になってしまうことも少なくありません。

こうした中、地域や自治体において高齢者による暮らしの支え合いが広がっています。老人クラブでも、「これからの友愛活動」において「暮らしの支え合い」を呼びかけているところです。そこで、同世代の仲間がどのようなことに困り、私たちに何ができるのかを考えるため、調査を行いました。

その結果、回答いただいた6割の人が現在「手伝ってもらいたいことがある」と答え、近い将来については7割に増えていました。一方、「手伝えることがある」と答えた人は8割、支え合いに参加できるという人が、手伝いを希望している人を上回っており、この力をぜひ活動に活かしていきたいと思えます。

誰もが住みなれた場所で暮らし続けるには、地域全体で考えていかななくてはなりません。そのためには、今回の調査結果を広く紹介し、多くの人に高齢者の暮らしについてもっと知ってもらうことが大切です。

調査に協力いただいた方々も、10年後にはさらに高齢になり、手伝えることが大幅に減少しています。若手高齢者をはじめ新しい仲間を増やし、支え合いの輪を広げていきたいと思えます。

最後に、調査にご協力いただいた会員、関係者のみなさまに、厚くお礼申し上げます。

全国老人クラブ連合会

副会長・女性委員長 永井 愛子

# — 目 次 —

はじめに

## I モニターの概要

1	モニターの主体と目的	5
2	モニターの実施期間	5
3	モニターの実施者	5
4	モニターの結果を読む際の留意点	6
○	これまでのモニターテーマ一覧	6

## II 老人クラブへのメッセージ

	暮らし支えあい活動で、老人クラブが、みんなが、元気に	7
--	----------------------------	---

## III モニターの結果のポイント

1	モニターの実施者	9
2	モニターからわかったこと	9
3	モニターの集計結果の概要	15

## IV モニターの結果

1	モニターの実施者	
	(1) 居住地域	21
	(2) 性別	22
	(3) 年齢	22
	(4) 世帯	23
	(5) 住まい	23

2	単純集計編	27
3	本編	43
	(1) 健康状態	43
	(2) 近所づきあいの程度	45
	(3) 困ったときの支援について	47
	(4) 「手伝ってもらいたいこと」と「手伝えること」の集計結果	50
	(5) 「現在、手伝ってもらいたいこと」(3区分)	55
	(6) 「近い将来、手伝ってもらいたいこと」(3区分)	57
	(7) 「現在、手伝えること」(3区分)	59
	(8) 「10年後、手伝えること」(3区分)	61
	(9) 「手伝ってもらいたいこと」と 「手伝えること」の現在と近い将来(10年後)	63
	(10) - 1 「手伝ってもらいたいこと」の内容1	66
	(10) - 2 「手伝ってもらいたいこと」の内容2 (5分類)	67
	(11) - 1 「手伝えること」の内容1	68
	(11) - 2 「手伝えること」の内容2 (5分類)	69
	(12) - 1 「現在、手伝ってもらいたいこと」と 「現在、手伝えること」1	70
	(12) - 2 「現在、手伝ってもらいたいこと」と 「現在、手伝えること」2 (5分類)	71
	(13) - 1 「近い将来、手伝ってもらいたいこと」と 「10年後、手伝えること」1	72
	(13) - 2 「近い将来、手伝ってもらいたいこと」と 「10年後、手伝えること」2 (5分類)	73
	(14) 「現在、手伝ってもらいたいこと」がない理由	74
	(15) 「暮らし支え合い」を広げていくために必要なこと	76
	(16) - 1 日頃「不安」に思うことの有無	79
	(16) - 2 日頃「不安」に思うことの内容	80
■	調査票	85
◆	結果を活かして、みんなで考え、取り組もう！	89

# I モニターの概要

## 1 モニターの主体と目的

- 「生活モニター活動」は、高齢者に関わるさまざまな物ごとを調査し、その結果を生かして高齢者の生活の向上・改善をめざすものです。
- 取り組みにあたっては、多くの人に高齢者の実態を理解してもらうとともに、結果から浮かびあがった課題について、改善に向けた活動につなげていくことを心がけるものです。
- これまで平成6年度以降15回実施し、今回が16回目となっています。
- 平成20年度より活動としての取り組み期間を2年とし、2年目は都道府県・指定都市老連において、全国調査の結果を生かした取り組みを行っています。
- 今回の調査は、高齢者の「暮らし支え合い」について調査しました。

## 2 モニターの実施期間

平成23年7月～8月

## 3 モニターの実施者

- モニターの実施者（有効回収数）は、全国の老人クラブ会員のうち「ひとり暮らし」と「高齢者夫婦世帯」の方2,902人です。
- 調査は、全国の都道府県・指定都市の老人クラブにおいて実施しました。

## 4 モニターの結果を読む際の留意点

今回のモニターの結果は、調査時点の現会員の意向であり、今後の新会員の加入者数や意向は反映されていません。ことに、近い将来（10年後）に関する回答については、今後の新会員（ことに比較的若い年齢層）の加入動向や、会員をはじめクラブとして「暮らし支え合い」をどのように受けとめ関わるかによって、今回のモニターの結果とは異なった将来像（10年後）となることも十分あります。

### ■これまでのモニターテーマ一覧

回数	テーマ	実施年度
NO. 1	公共交通機関	平成6年度
NO. 2	地震等の備え	平成7年度
NO. 3	介護	平成8年度
NO. 4	高齢者の暮らしの不安	平成9年度
NO. 5	高齢者に配慮した建物	平成10年度
NO. 6	公共交通機関（鉄道の券売機・バスについて）	平成11年度
NO. 7	高齢者が多く利用する旅館、ホテル	平成12年度
NO. 8	家の中の転倒	平成13年度
NO. 9	健康診断と健康管理	平成14年度
NO. 10	歯（口腔）の健康	平成15年度
NO. 11	暮らしの中の耳の聞こえ	平成16年度
NO. 12	高齢者と薬	平成17年度
NO. 13	高齢者と食生活	平成18年度
NO. 14	80歳以上の高齢者の外出について	平成19年度
NO. 15	高齢者の暮らしと悪質商法について	平成21年度
NO. 16	高齢者の「暮らし支え合い」について	平成23年度

#### 報告書内の記号について

- 「N」 : 集計したモニターの実施者数（母数）のこと。
- 「複数回答」 : 選択肢を1つ以上選ぶ質問のこと。合計の割合が100%以上になる。